

こすもす便り 第17号 (2018年3月)

◇保護者の皆さまへのお知らせ紙です◇

★ ご挨拶

★主体的な活動へ

その 1: ある日のこと、自由遊びに興じていた Y 君が思い出したように、「今度の活動でやりたいことがある」と言うので、内容を聞いてみるとどうやら提案は、園にあるものを使った障害物競走のようです。できそうなので次の活動に取り入れることにしました。

職員はピンに見立てたペットボトルを 10 本程度準備しただけで後は任せることにしました。

当日は、始めに活動の内容を Y 君がみんなに説明すると、みんなはいつもと違った展開に何が始まるのかと目を見張って真剣に聞いていました。興味津々です。友達に理解出来るようにと、フラフープで東の陣地と西の陣地を作り、ピンを運んだり、クッションを飛び越えたり、実演を交えて説明をしました。複雑で少し難しいのではないかと思いきや、全員がたった 1 回の説明で理解するとスムーズに開始しているのには職員も驚いてしまいました。

1 回戦が終了すると、A 君がおもむろに新バージョンを提案し、それを受けて B 君も C 君もアレンジを加えた意見を出し合い始めました。このゲームの提案者 Y 君も皆の意見を取り入れて、新しいバージョンで 2 回戦が始まりました。結局、活動時間内に 3 ゲーム行い、最後まで真剣に取り組んでいました。活動時間が終了してからも、続けて遊ぼうということになり、しばらく歓声が響いていました。

その 2: その経験があつてすぐに今度は H 君が「工作でやってほしいものがある」と自分の考えた工作を提案してきました。最近よく輪ゴムが欲しいと言って来ていたところを見ると何かの試作をしていたようです。聞くと、お父さんと一緒に作ったゴム鉄砲がとても良く飛んだので、今度は自分ひとりで作ってみたかったのだそうです。早速活動に取り入れることにしました。さて、その日は友達全員が揃って活動を待ち構えていました。H 君の説明をしっかりと聞いて、見本を参考にしながら、一斉に作り始めました。作っていくうちにアレンジが楽しくなったようで、出来上がってみると、それぞれ違った特徴のあるゴム鉄砲が出来上がり、「それ良いね」「それどうやって作った?」「これはね・・・」と感想を述べながら飛ばし合いを心ゆくまで楽しんでいました。

活動の内容を自分達で考え、主体的に行うという子ども自身の「能動性」の重要性を感じる日々でした。友達の発想にも興味を示し子ども同士の主体性は意欲と新しい発想を生み出すようです。

裏に続きます

★ 気持を学ぶ言葉

子どもはどうやって自分の気持の言葉を獲得するのでしょうか。

気持は見えません。子どもにとっては学びづらい抽象的な言葉です。まわりの大人が子どもの様子を見ながら「楽しそうね」「おもしろいよね」「悲しいの？」と声かけをします。この言葉を受けて、子どもは自分の気持ちについて、その言葉を理解していくと考えられています。

子どもは3歳前後から絵本の読み聞かせが好きになります。絵本の中には、「嬉しい」「怒ってる」など、たくさんの気持の言葉が出てきます。子どもたちは気持の言葉を、絵本からも学んでいるのだと思われます。

こすもすでは、極力言葉を省略しないで伝え見えない気持を共有しようと努めています。

- ♣ 「出来たね、うれしいね」
- ♣ 「上手だったね、楽しかったね」
- ♣ 「頑張ったね、良かったね」
- ♣ 「出来なかったね 悔しいね」「残念だったね」
- ♣ 「難しかったね でも頑張ったね」

大人は往々にして子どもを「出来たー出来ない」で評価しがちです。それでは、子どもとの関わりが「目的化」してしまいます。本来、一般的には子どもとのやりとりは「手段」的で複線的です。「出来たー出来ない」よりも、子どもの考え方や感じ方に重点が置かれることで、自然に気持の言葉を使っているのです。

気持の表現が苦手な子どもの中には、気持の言葉を教わる機会が少なく、気持の表現を求められることも少なかったことも影響している場合があります。（たとえば、子どもが自分の意思を伝える必要がないほど気を利かせ先回りする親心、返事を待たずに良かれと思う事を選択してあげる親心、小さな失敗からも遠ざける親心）

気持の言葉が少ないからといって、分かっていないとは言えません。アニメやドラマを観て楽しめる子どもは、色々な人の気持ちに気づいていると思われます。自分の気持ちを表現できないけれど、分かってもらいたいと思っているはずです。

子どもの行動を見て、私たちがその気持を想像して代弁することはとても大切なことです。特に勝負に負けて、どうして良いか分からない混乱の中で、泣きながら興奮しているときは、しっかり抱きしめて「悔しかったね」と気持の言葉を代弁することで、自分の気持ちに気づき、それを分かってもらえたことが伝わると、その後の「また挑戦しよう」という言葉が届きやすくなります。代弁の言葉は、初めは届かないので繰り返し何度もしっかりと伝えます。徐々に聞こえはじめ、自分の気持が理解されると、全身に込められていた怒りで満タンになっていた力が緩み、ようやく言葉が聞こえてくるようになるのです。初めから大人の意見を伝えようとするばかりでは空回りしてしまいます。（見えない気持を言葉で確認しながら丁寧に）

【発行】 放課後等デイサービス こすもす 管理者 中島通子

〒 880 - 0916 宮崎市大字恒久 4 9 4 2 - 4

☎ 0985-72-3869 FAX-72-3365

携帯電話 090-8841-7024

E-mail patorihoudei@yahoo.co.jp